

葉色が急激に低下！ 2回目穂肥を確実に実施！！ 暑い夏に備えて、3回目穂肥も準備しましょう

— ここがポイント —

- 1 コシヒカリの2回目穂肥は確実に実施し、後期栄養を確保する。
- 2 高温が予想されるので、3回目穂肥施用も検討する。
- 3 出穂期後 25 日間は飽水管理を徹底する。

1 生育状況（7月19日現在）

- (1) コシヒカリの生育状況は目標に比べて、
草丈「並」、茎数「並」、葉数の進み「並」、葉色「並」。
- (2) 7月中旬の高温・多日照の影響で、前回調査から葉色が急激に低下した。

表 生育調査結果

品 種		草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD 値)
コシヒカリ (調査点数9)	本年値平均	80	417	12.2	32.9
	目標比・差	102	101	-0.1	-0.5
	平年比・差	102	105	±0	-0.8
こしいぶき (調査点数3)	本年値平均	75	490	13.0	37.5
	目標比・差	105	109	+0.2	+0.5
	平年比・差	105	112	+0.2	-0.7
新之助 (調査点数3)	本年値平均	63	455	12.2	31.2
	目標比・差	97	83	+0.2	-2.8
	前年比・差	102	99	-0.1	-2.4

2 今後の天気（7月21日～8月20日：新潟地方气象台発表）

期間の前半は気温がかなり高く、降水量の少ない状態が続く見込みです

- ・気 温：低い確率10%、**平年並みの確率 20%**、**高い確率 70%**
- ・降 水 量：少ない確率 40%、**平年並みの確率 40%**、**多い確率 20%**
- ・日照時間：少ない確率 20%、**平年並みの確率 30%**、**多い確率 50%**

3 出穂期予想（7/19日現在）～中生・晩生とも平年より1日早い見込み～

品種名	出穂期予想※	穂肥散布時期(出穂期前日数)		合計窒素量 (kg/10a)	
		1回目	2回目		
中生	コシヒカリ	8/5	7/18～7/21(18～15)	7/26(10)	1～3
	こがねもち	8/1	7/14～7/17(18～15)	7/22(10)	1～3
晩生	新之助	8/11	7/21～7/24(21～18)	7/30～8/1(12～10)	2

※中生品種は5月5日植え、新之助は5月中旬植えを想定

4 コシヒカリの穂肥対応

(1) 分施（基肥＋穂肥）体系

ア 2回目穂肥

後期栄養を維持するため出穂期 10 日前（1 回目穂肥を遅めとした場合は、1 回目の 7 日後）に確実に施用する（窒素成分で 1.0～1.5kg/10a）。

イ 3回目穂肥

登熟期の高温が予想されているので、下表を参考に 3 回目穂肥を施用する。

表 コシヒカリ3回目穂肥施用の判断基準、施肥時期及び施用量

栽培体系	使用肥料	3回目穂肥施用の判断基準 (葉色は SPAD 値)	施肥時期	施用量 (窒素成分)
慣行	化学肥料	出穂期3日前の葉色:31 以下	出穂期3日前	1kg/10a 以下
減減	有機 50%肥料	出穂期6日前の葉色:33 以下		出穂期6～3日前
	有機 100%肥料※			

※ 低地力地帯では、2kg/10a をめやすに施用する。

(2) 基肥一発体系

葉色が急激に低下し、出穂期の葉色が SPAD 値 32～33 を下回ると予想される場合は、出穂期 10 日前（分施体系の 2 回目穂肥時期）に追加穂肥（窒素成分 1 kg/10 a）を施用する。

5 出穂後の水管理

- (1) 出穂期後 25 日間は飽水管理を徹底する（輪番制になっている地域は、通水日にしっかりかん水する）。
- (2) 強風やフェーンが予想される場合にはあらかじめ湛水する。
- (3) 高温下での長期間の湛水は根腐れを引き起こすので、こまめにかん水する。

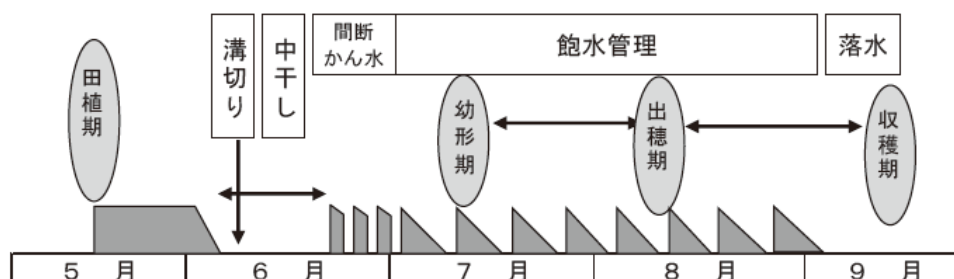


図 水管理のイメージ

6 カメムシ対策

雑草が結実しない間隔（3～4週間）での農道・畦畔の草刈りを継続する。また、水田内のホタルイやヒエの除草を徹底する。

7 新之助の管理（新之助研究会の方へ）

- (1) 1 回目穂肥は幼穂を確認し、適期（幼穂長 5～10mm）に施用する。また、葉色が SPAD 値 33 未満の場合は、施用量を窒素成分で最大 1.5kg/10a まで増やす。
- (2) 葉いもちの発生が認められたら直ちに追加防除を行う。
- (3) 穂いもち防除は、新之助の出穂期予測に合わせて適期に薬剤を散布する。

熱中症に注意！

農作業は気温の高い時間帯を避け、こまめに水分を補給しましょう